

特集

RSNA 2010

PERSONALIZED MEDICINE: In Pursuit of Excellence



第96回北米放射線学会 (RSNA 2010) が2010年11月28日(日)～12月3日(金)の6日間の日程で開催された。会場は、これまでと同様、米国イリノイ州シカゴ市マコーミックプレイス。広大な会場に、“PERSONALIZED MEDICINE : In Pursuit of Excellence”という大会テーマのもと、世界各国から5万8044人が集まった。本特集では、RSNA 2010のホットピックスをエキスパートの先生方が領域別に、独自の切り口で報告する。なお、Technical Exhibitsについては、1月号別冊付録『RSNA 2010 ハイライト』、インナビネット「RSNA 2010 スペシャル」(<http://www.innvision.co.jp/>)も、併せて参照されたい。

テラーメイド医療における 放射線医学を考える

RSNA 2010の幕開けを告げる Opening Sessionは、大会初日の11月28日午前8時30分から、Arie Crown Theaterで行われた。大会長を務めるニューヨーク州メモリアル・スローン・ケタリング・がんセンター放射線科部長で、コーネル大学医学部放射線科教授のHedvig

Hricak, M.D., Ph.D., Dr. h.c.は、“Onco-logic Imaging : A Guiding Hand of Personalized Cancer Care”と題したPresident's Addressを行った。Hricak大会長は、放射線画像ががん治療の進歩を確実に進めて、テラーメイド医療に向けての道筋をつけたと述べた上で、21世紀のテラーメイド医療は患者に最適な医療を提供するとともに、コスト削減にもつながると説明した。さらに、Hricak大会長は、テラーメイド医療

における生体標識薬の重要性を示し、分子イメージングが果たす役割の大きさについて言及した。Hricak大会長は、分子イメージングがこれからの放射線医学において、新しい領域として発展していくとの見方を示し、そのためにも人材育成の必要性が高まっていると述べた。このほか、Hricak大会長は、分子イメージングにおいては、病理学との連携もカギとなるとの見方を示した。

President's Addressに引き続き、